

第三者評価結果の公表事項(乳児院)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②評価調査者研修修了番号

SK2021131 SK2021132 第 2006-05 号 第 2014-12 号

③施設の情報

名称：麦の穂乳幼児ホームかがやき		種別：乳児院
代表者氏名：横川 哲		定員（利用人数）： 15 名
所在地：岐阜県中津川市千旦林 1 4 6 8 - 5 2		
TEL：0 5 7 3 - 7 8 - 0 2 7 0		ホームページ：http://www.muginoho-gifu.com
【施設の概要】		
開設年月日 2001年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 カトリック名古屋教区 報恩会		
職員数	常勤職員： 32 名	非常勤職員 1 名
有資格 職員数	（資格の名称） 名	
	保育士 24 名	臨床(公認)心理士 1 名
	看護師 5 名	社会福祉士 2 名
	栄養士 3 名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	プレイルーム 寝室3室 小規模グループケア 3か所 子育て支援短期利用室 1室	事務室 会議室 職員休憩室 観察室 浴室 ほふく室 母子養育指導室 洗濯室

④理念・基本方針

【理念】 隣人愛 ～すべての人々を大切にする～

【基本方針】

麦の穂乳幼児ホームかがやきは、子ども達の未来が幸せいっぱいになり輝くように願いを込めて『かがやき』と名づけました。優しく暖かな雰囲気の中で、包容力いっぱいを守り育て、からだも心も共に健やかな成長を願って養育看護に努めます。

1. 子どもの権利擁護

ことばでうまく気持ちを伝えることができない乳幼児の権利侵害を防止するために、児童

憲章と権利条約の理念、乳児院倫理綱領を遵守し、子ども達へのいかなる差別・虐待を許さず、不適切なかわりをしないよう自ら律します。

2. 温かい家庭的な環境

人間の人格形成は乳幼児期の関わり・育て方によって大きく左右されることを職員相互が真剣にとらえ愛される喜び、温かく抱擁される心地よさを味わることができるホームづくりに努めます。

3. 発達の支援 個別対応

ひとりひとりの子どもがその子らしく、のびのびと生活できるよう、月齢は発達に応じた養育、個別の対応を行います。

4. 家庭への支援

子ども達の家庭環境を十分理解するためのアセスメントを丁寧に行い、関係機関と協働し、保護者・里親とともに子どもたちの成長を喜び、温かみのある支援を実施します。

5. 地域との交流、地域の開かれた子育て支援の場所として機能を生かした運営に努めます。

【職員の心得】 か 語り合おう
が 学習しよう
や 優しい心と柔らかな態度で
き キラキラした子ども達の目の輝きを大切に

⑤施設の特徴的な取組

1. 親や里親希望者と子どもとの愛着形成の構築をめざし、面会交流の機会を大切にするとともに、家庭支援や里親支援の取り組みを丁寧に行い、関係性のアセスメントを繰り返し実施している。アフターケアとして退所した児童との交流会の企画を立てたり、児童養護施設の会議へ出席し、協力や助言等を行っている。

2. 保健センターや福祉事務所と連携し、特定妊婦への寄り添い支援を心がけ、産前・産後母子支援を充実させ、在宅支援につながる取り組みを強化している。地域子育ての拠点支援として「びよびよひろば」の企画・開催等を行っている。

3. 「乳幼児総合支援センター」構想を実現する取り組みを行っている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（和暦）	令和4年6月10日（契約日）～ 令和5年3月31日（評価結果確定日）
前回の受審時期 （評価結果確定年度・和暦）	令和1年度

⑦総評

◇特に評価の高い点

<日々、養育の質の向上を目指している>

「愛着形成」と「豊かな生活の保障を」を掲げ、生活の中で子どもが自己肯定感を持てるよう、「子どもが生活主体」との観点から、子どもの気持ちを大切にし、真摯に養育・支援にあたっている。一貫した担当養育制度を採り、日常的に特定の大人と関わり、信頼できる大人との愛着関係が築けるよう取り組んでいる。

<子どもの権利擁護に取り組んでいる。>

会議で乳児院倫理綱領、適切な関わりのためのチェックポイントを読み合わせ、意見交換を行うとともに、養育のあり方について振り返りを実施する等して、子どもの最善の利益を目指し、子ども本位の養育・支援に努めている。また、養育ハンドブック・児童虐待防止マニュアルを整備し、会議で話し合い、不適切なかかわりの防止方法を理解し、虐待防止意識を高めている。

<子どもや保護者への心理的なケアが行われている。>

心理士が子どもの行動について分析、アセスメントして保育士に助言し、心理面に視点を置いたケアに取り組んでいる。保護者の面談について心理的な観点からの支援も検討できている。

<親子関係の再構築に積極的に取り組んでいる。>

保護者の乳幼児の養育支援に資すべく、交換ノートや写真入りの資料を作成する等工夫して、子どもの様子の情報を提供している。保護者の不安には根気強く、丁寧に寄り添い、助言・指導しながら、共に子どもの成長を喜び、子どもと楽しく遊ぶ事ができる関係構築に向けた支援に努めている。

<記録がわかりやすい。>

これまでの経験をわかりやすく記録に残してあるので、振り返りもしやすく、支援の質の向上につながっている。新人職員でも目で見えて理解でき、支援方法の習得が理解しやすい。

<ITC化の促進に力を入れ、業務の効率化を図っている。>

サーバーシステムを導入し、パソコンネットワークシステムの機能を活用する等、業務の効率化が進められている。また、職員間で子どもの情報共有が進み、養育・支援の質の向上にも

つながっている。

＜豊かな自然を活かした養育環境が整備されている。＞

施設は静かで豊かな自然に恵まれた地域に立地し、季節ごとに小さな生き物との触れ合いを大切にしたり、また、畑で採れた野菜を食材に加える等、季節感を大切にした調理を行っている。コロナ禍の影響のない例年は、その自然を活かして、夏祭りやキャンプ等、法人の行事や地域行事に相互参加する等、地域と密な交流関係ができています。

◇改善を求められる点

＜今後とも、施設のさらなる経営体質の強化に向けた取り組みに期待したい。＞

乳児院を取り巻く経営環境を分析し、具体的な経営課題（福祉動向変化への対応、人材確保・定着、職員教育、職場環境整備、新ビジョンへの対応、地域ニーズへの対応、ICT化の推進、安定した継続経営等）を明確化し、業務の効率化や経費の節減等、効率的な施設運営に向けた取り組みを行っている。今後とも、外部の経営の専門家の助言も取り入れる等して、施設のさらなる経営体質の強化に向けた取り組みに期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

評価項目の内容について職員全体で読み合わせながら、子どもや保護者への支援の在り方について課題や不足を洗い出し、どのような取り組みが必要か、協議するよい機会となっています。評価項目を振り返る中で、自分たちの強みについて確認することができたことも、職員のモチベーションアップにつながっています。質の高い養育を目指すほど業務量も増え、職員のスキルアップが求められます。また施設経営の課題としても、働き方改革や人材育成と人材確保・定着が求められます。

改善を求められる点として受審結果を謙虚に受け止め、今後も多様化する地域のニーズに応えていくことができるよう、満足度の高い施設運営を目指していきたいと考えています。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。